

小中学校国語科における「話すこと・聞くこと」の指導

Teaching “Speaking・Listening” of Japanese Language in Elementary and Junior High Schools

光野 公司郎・篠原 京子（常葉大学）

Koshiro KONO・Kyoko SHINOHARA

概要

これからの社会は、国際レベルで解決すべき課題がますます多くなってくる。そのような社会に対応していくために、国語科教育は従来の受信型から発信型への転換が求められるようになった。特に、表現と理解の両方の能力を育成し、コミュニケーション力を高めていく「話すこと・聞くこと」領域の指導に力が入られるようになってきた。しかし、その指導は、十分な成果が上がっていない現状がある。本稿では、小中学校における「話すこと・聞くこと」領域の指導の問題点を解明し、今後の指導の方向性を示していく。さらに、具体的な改善案と教材案を示し、実生活・実社会で役に立つ音声言語技術指導の体系化を図ることを目的とする。

キーワード：発信型の国語科教育、「話すこと・聞くこと」領域の指導、音声言語技術の体系化

Abstract

The future society will have more and more issues to be solved at the international level. In order to deal with such a society, the Japanese language education is required to shift from the traditional reception type to the output type. Especially, teaching “Speaking・Listening” has become increasingly important, which develops students’ ability to express and comprehend and enhances their communication skills. However, the current instruction seems not sufficiently successful. This paper identifies some issues of teaching “Speaking・Listening” at elementary and junior high schools, and shows the direction of the future instruction. Furthermore, it aims at systematization of teaching spoken language that can be useful in real life and society by showing specific ideas for improvement and teaching material plans.

Keywords: The output type education of Japanese Language, Teaching “Speaking・Listening” of Japanese Language, Systematization of teaching spoken language

1. はじめに

国際化が進む現代社会では、国籍や文化的背景、宗教観の異なる様々な人々と日常生活、社会生活の両面においてともに活動する機会が増えている。それに伴い、円滑な人間関係の構築やコミュニケーション力の向上に向けて国語科教育における「話すこと・聞くこと」の言語能力を高めることへの期待が高まっている。しかしながら、現在の国語科教育はその責任を十分に果たしているとは言えないのが現状である。本稿では、その現状を明らかにし、現状を打開するための対策を提案する。

2. 学習指導要領の変遷

2.1 領域構成の変遷

下の図1は、文科省が学習指導要領の領域構成の変遷をまとめたものである。(下線は篠原による。)

この領域構成の変遷からは、次のことが分かる。

- ①国語科の領域は、初め「聞くこと・話すこと」「読むこと」「書くこと」に分かれていたが、昭和52年版で「理解」「表現」としてまとめられ、その後、平成10年～11年の改訂により再び「話すこと・聞くこと」として明示された。
- ②昭和33～35年の改訂では「聞くこと・話すこと」となっていたが、平成10～11年の改訂では、「話すこと」が「聞くこと」より先に示された。

(参考) 国語科の領域構成及び高等学校の科目の変遷について

学習指導要領	小・中・高等学校国語科の領域構成	高等学校国語の科目 (◎:必修、○:選択必修)
昭和33～35年改訂 (告示)	A <u>聞くこと、話すこと</u> 、 <u>読むこと</u> 、 <u>書くこと</u> B ことばに関する事項	◎現代国語 古典乙Ⅱ ○古典甲 ○古典乙Ⅰ
昭和43～45年改訂 (告示)	A <u>聞くこと、話すこと</u> B <u>読むこと</u> C <u>書くこと</u> ことばに関する事項	◎現代国語 古典Ⅱ ◎古典Ⅰ甲 古典Ⅰ乙
昭和52～53年改訂 (告示)	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 現代文 国語Ⅱ 古典 国語表現
平成元年改訂 (告示)	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 現代語 国語Ⅱ 古典Ⅰ 国語表現 古典Ⅱ 現代文 古典講読
平成10～11年改訂 (告示)	A <u>話すこと・聞くこと</u> B <u>書くこと</u> C <u>読むこと</u> 〔言語事項〕	○国語表現Ⅰ 現代文 国語表現Ⅱ 古典 ○国語総合 古典講読
平成20～21年改訂 (告示)	A <u>話すこと・聞くこと</u> B <u>書くこと</u> C <u>読むこと</u> 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎国語総合 現代文B 国語表現 古典A 現代文A 古典B

図1 学習指導要領国語科の領域構成の変遷 (注1)

2.2 国語科の目標の変遷

小学校学習指導要領の国語科の目標の変遷を以下の表1に示す。なお、中学校については小学校とほぼ同様であるため、省略する。

表1 小学校学習指導要領国語科の目標の変遷

①	昭和52年～53年改訂	国語を正確に理解し表現する能力を養うとともに、国語に対する関心を深め、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる。
②	平成元年改訂	国語を正確に理解し適切に表現する能力を育てるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。
③	平成10～11年改訂	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。
④	平成20～21年改訂	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。
⑤	平成29年改訂	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

この目標の変遷からは次のことが分かる。

- ①平成10年版に「伝え合う力を高める」という目標が加わった。
- ②平成10年版では、「理解」より「表現」が先に示された。

学習指導要領の領域と目標の変遷をたどると、文科省は平成10年版で、受信的な国語科教育から発信的な国語科教育への転換を図ろうとしていることが分かる。

3. 「話すこと・聞くこと」の成果の実態

3.1 時代の要請

文部科学省は、「話すこと・聞くこと」の言語能力の必要性について次のように述べている。^(注2) (傍線は篠原による)

- グローバル化の中で世界と向き合うことが求められている我が国においては、日本人としての美德やよさを備えつつ、グローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力の育成が求められており、多様な情報や考えを理解して、文章や発話により表現したり、個人や集団の考えを形成して深化させたりしていくために必要となる、言語能力や情報活用能力の向上が重要な課題となっている。
- これからの時代を生きる子供たちには、言葉が持つ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、社会や文化を創造していくことや、言葉を通じて自分の見方や考え方を深めるとともに、考えを伝え合うことで集団の考えを発展していくことが求められる。

ここからは、国際化が進む現代社会の要請に応じて、国語科教育における「話すこと・聞くこと」の重要性が高まっていることが分かる。

3.2 成果が上がらない現状

一方、十分な指導の成果が上がっていない現状が、文部科学省から以下のように報告されている。^(注3) (傍線は篠原による)

- ・企業・大学生ともに、社会に出て活躍するために必要だと考える能力要素として「コミュニケーション

力」を挙げているが、企業側は学生に対し、「コミュニケーション力」の不足を感じている。【大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査（平成22年経済産業省）】

- ・人の言いたいことが理解できなかった経験がある人の割合は約67%，自分の言いたいことが伝わらなかった経験がある人の割合は約63%である。【平成24年度国語に関する世論調査】
- ・場面や状況を踏まえて話したり，話し手の意図を踏まえて質問したりすることに課題がある。また，話合いの目的を踏まえた上で，観点に沿って発言を整理したり，話合いの報告を捉えて話したりすることに課題がある。【平成26年度全国学力・学習状況調査，平成25年度全国学力・学習状況調査（中学校），平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】
- ・コミュニケーション能力に係る以下の質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は，以下のとおり。【平成25年度全国学力・学習状況調査】
 - * 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」（小学校49.5%，中学校48.4%）
 - * 「自分の行動や発言に自信を持っていますか」（小学校56.1%，中学校49.8%）
 - * 「友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか」（小学校72.8%，中学校67.4%）
- ・話合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習指導が低調で，生徒のコミュニケーション能力の育成に課題がある。【「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」財団法人日本システム開発研究所（平成21年度文部科学省委託調査報告書）】

これらの文科省の報告には、「話すこと・聞くこと」の指導が成果に結びついていない課題が示されており，今後の指導改善の必要性の裏付けとなっている。

3.3 大学生への意識調査

3.2では，文科省による現状報告を示した。ここでは，「話すこと・聞くこと」について篠原が実施した大学生への意識調査（紙面によるアンケート調査，対象：常葉大学保育学部1年生90名，実施日時：2017年4月21日）の結果と考察を述べる。

(1) 「話すこと」「聞くこと」についてどう感じていますか。

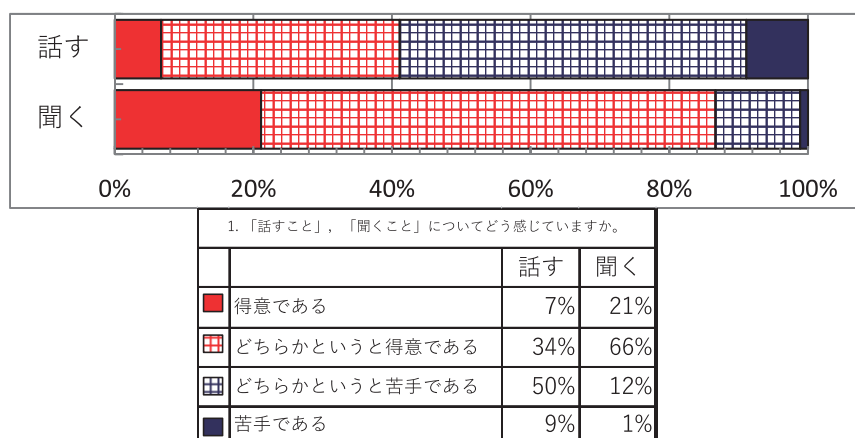
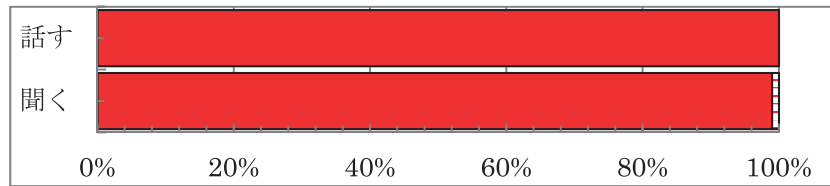


図2 「話すこと」「聞くこと」についてどう感じているか

この結果からは、「話すこと」に苦手意識をもっている学生(59%)が、「聞くこと」(13%)の約4.5倍と多かったことから，発信的な国語科教育が達成されていないことが分かる。

(2)「話す」「聞く」技術は、あなたにとって必要だと思いますか。



2. 「話す」、「聞く」技術は、あなたにとって必要だと思いますか。			
		話す	聞く
<input checked="" type="checkbox"/>	必要である	100%	99%
<input type="checkbox"/>	どちらかという必要である	0%	1%
<input type="checkbox"/>	どちらかという必要でない	0%	0%
<input type="checkbox"/>	必要でない	0%	0%

図3 「話す」「聞く」技術は必要か

この結果からは、「話す」「聞く」技術の必要性はほぼ全員が認識していることが分かる。

(3) あなたはこれまでに「話すこと・聞くこと」についてどんなことを習いましたか。(自由記述・複数可)

表2 高校までの学習内容

A 技術的な内容	C 精神面での内容
ア 相手の顔・目を見る (67名)	ツ 相手のことを考えながら話す (3名)
イ 相づち・うなづき (33名)	テ 集中して聞く
ウ 身振り・手振り・表情 (5名)	ト 耳と目と心で聞く
エ 声の大きさ (3名)	
オ はっきりした声で (2名)	D 意欲付けの内容
カ 相手に反応する (2名)	ナ 話すこと・聞くことは大切で、自分の強みになる
キ 相手の行ったことを繰り返す	ニ 人間関係を作る上で大切
ク 間やタイミング	ヌ 聞くのが大事
ケ 主語述語を入れて話す	
コ 途中で遮らない	E 項目についての内容
サ 全体を見わたす	ネ ディベート (2名)
シ 顔を上げて話す	ノ プレゼン
ス メモ	ハ 面接
	ヒ 1分間スピーチ
B 漠然とした内容	
セ 短く分かりやすく話す (2名)	F 記憶なし
ソ 重点を置いて、的確に話す	フ 習っていない
タ まとめて話す	
チ ポイントを聞き取る	

以上、表2の大学1年生が記憶しているこれまでに学んだことの結果からは、以下のことが分かる。

- ①「(1) 技術的な内容」については「相手の顔・目を見る (67名)」「相づち・うなづき (33名)」が中心で、それ以外は、少なかった。もっとこの技術的内容を充実する必要がある。
- ②「(2) 漠然とした内容」「(3) 精神面」「(4) 意欲付け」は具体的指導がなく、言語技術の向上に役立たない。
- ③(5) は言語活動の記憶だけで、学んだ言語技術の記述がない。
- ④小中高12年間の「話すこと」「聞くこと」の指導で、十分な音声言語技術が定着していないことが分かる。

(4) あなたが「話すこと・聞くこと」で教えて欲しいことは何ですか。

表3 「話すこと・聞くことで教えて欲しい内容

A 「話すこと」に関すること (59名)	B 「聞くこと」に関すること (10名)
ア 上手な話し方 (10名)	ツ 聞き上手になる方法 (5名)
イ 伝わりやすい話し方 (6名)	テ 聞いたことを忘れない方法
ウ 聞きやすい話し方 (3名)	ト 相手の話に興味を持つ方法
エ 簡潔に話す方法 (2名)	ナ メモの取り方
オ まとまった話し方 (5名)	ニ 聞く姿勢
カ 話すコツ	ヌ 聞き逃さない方法
キ 人前に立って話す話し方 (4名)	
ク 緊張しない方法 (6名)	C コミュニケーションに関すること (11名)
ケ 機応変に話せる方法	ネ 会話を続ける (4名)
コ 年上の人との話し方・敬語・丁寧な話し方・言葉遣い (9名)	ノ コミュニケーションの方法 (2名)
サ 論理的な話し方	ハ 相手に心を開いて話してもらえるか (2名)
シ 飽きさせない話し方 (4名)	ヒ 好印象の話し方聞き方 (3名)
ス 説得力のある話し方	
セ 上手な説明	
ソ レポート発表	
タ 相づちのタイミング (2名)	
チ プレゼン (2名)	

この結果からは、以下のことが分かる。

- ①「話すこと」について教えて欲しいと思っている学生が多い。
- ②「聞くこと」よりも「話すこと」に苦手意識を持っているというアンケート結果と一致している。

以上のアンケート結果を踏まえて、学生が身に付けたい内容を言語技術として具体化し、身に付くまで、繰り返し楽しく練習できる教材の開発が必要であると考えます。

4. 「話すこと・聞くこと」の指導の現状

4.1 指導の問題点

4.1.1 自分自身の体験から

篠原は、33年間小中学校で国語を指導してきた。その自分の体験や同僚の感想から、「話すこと・聞くこと」の教科書教材は扱いにくいという実感をもっている。その理由を4つ述べる。

- ①音声言語は、挨拶等の身近な内容から社会性の高い内容まで多種多様であるため、毎回新しい内容が登場し、学習の積み重ねが図れない。
- ②考えを広めたり深めたりすることを重視する教材が多く、学習の難度を上げている。
- ③目的意識、相手意識を重視して実生活上必要な内容を題材にしているため、その課題解決が優先され、言語技術の習得という本来の目的が見失われてしまう。
- ④学習者の活動量を増やすためにグループ活動を多く取り入れているが、現状では指導者の目が届かないため適切な指導や評価ができない。

4.1.2 アンケート調査から

東京都の小学校の教員32名に対して、アンケート調査を実施した。(平成29年4月)その結果を以下に示す。
問1「教科書の『話すこと・聞くこと』教材についてどう感じていますか。」

ア 指導しやすい 1名

- イ どちらかという指導しやすい 11 名
- ウ どちらかという指導しづらい 20 名
- エ 指導しづらい 0 名

問2「その理由はなぜですか。」

〈指導しやすい理由〉

- ア 題材が発達段階を考慮しているため。
- イ モデルが入っている。
- ウ 身近なテーマを扱っている、子どもも取り組みやすい。
- エ 児童が体験したことなど話をさせるのは指導しやすい。
- オ 低学年は使いやすい。
- カ 話すことを明確にすることにより、話形に従って話すことを指導できる。
- キ 考える必要のあることだから。

〈指導しづらい理由〉

- ア 聞くことのねらいを明確にして授業をつくり、それに応じた評価がうまくできない。
- イ 聞くことの評価が難しい。
- ウ 評価があいまいになる。特に「聞くこと」の評価の観点が決めにくい。
- エ 活動は活発に見えるが、評価が難しい。
- オ 話し合いをする単元がよくありますが、学活の話し合い活動とのすみ分けがよく分からない。
- カ 聞くことの指導が難しい。興味を持って聞ける内容を考えるのが難しいため。
- キ 考えをまとめて伝えるのが難しい。
- ク 学習単元のまとめの活動に悩む。
- ケ 単元によって一人ひとりでの経験により差が生じ、話型等活動をしても難しいと感じることがある。
- コ 学習の進め方を何通りか示してあるが、そのように進めることが難しい。
- サ 構成、活動内容が難しい。
- シ スピーチの構成が明確でないため、指導の際不安を感じる。
- ス 見とりがしづらいから。
- セ 話題に沿った質問の仕方や、知らせたいことや事物の特徴を伝えるための指導の仕方など。
- ソ 題材の選定に困ることがある。
- タ スピーチの内容が多く、マナー化しないようにこちらで工夫しなければならないから。
- チ 討論等の指導は難しいと感じるため。
- ツ グループの話し合いの教材では、内容が難しい。5年…環境、6年…平和
- テ 安全について考えよう」という単元だが、9月になっている。内容としては一学期に総合などとやりたいので指導しづらい。
- ト 教科書に載っている指導時期がやりづらかった。

以下、アンケートの結果を考察する。

- ①「指導しづらい・どちらかという指導しづらい」と答えた教員が多かった。
- ②評価に関しての難しさを感じている教員が多かった。
- ③傍線部「学活の話し合い活動とのすみ分けがよく分からない。」との感想に、今後の教材改善へ向けての示唆を感じた。

4.2 小中学校教科書教材の分析

本節では、実際の小中学校の「話すこと・聞くこと」の教科書教材について分析する。

4.2.1 改善の余地がある教材例

前述の光村図書・東京書籍の教材の中から、特に改善の余地があると感じた教材を示す。

(1) 光村図書 小3上「つたえよう、楽しい学校生活」^(注4)

家の人を招待して、グループで学校生活についての発表会をする教材で、以下の点で扱いにくく、成果が期待できない。

- ① 15時間扱いで、長過ぎる。
- ② 指導事項が5つで、多過ぎる。(話・聞4つ、伝1つ)
- ③ 活動が多過ぎる。(話題を決める話し合い・説明の仕方の話し合い・発表練習・家の人への発表会)

(2) 東京書籍 小3下「町について調べてしょうかいしよう」^(注5)

住んでいる町についてグループで調べたいことを決めて調べ、発表会を開いて紹介し合う教材で、以下の点で扱いにくく、成果が期待できない。

- ① 10時間扱いで、長過ぎる。
- ② 指導事項が5つで、多過ぎる。(話・聞3つ、伝2つ)
- ③ 活動が多過ぎる。(調べることを決める話し合い、グループでの調べ学習・発表会)

4.2.2 扱いやすい教材例

前述の光村図書・東京書籍の教材の中から、比較的扱いやすいと感じた教材を示す。

(1) 光村図書 小5「教えて、あなたのこと」^(注6)

友達に1分間のインタビューをした後、一文で友達を紹介する教材で、以下の点で優れている。

- ① 1時間扱いで、取り組みやすい。
- ② 指導事項が1つで、目標が明確である。
- ③ 年度の初めに楽しくコミュニケーションを図るのに適した内容である。

(2) 東京書籍 中1「会話が弾む質問をしよう」^(注7)

4人1組になり、質問者・回答者・時間係・メモ係を分担し、メモをもとに質問者が回答者を紹介する教材で、以下の点で優れている。

- ① 交代して4つの役を全員が体験できる。
- ② 繰り返し行うことにより、言語技術が身に付く。
- ③ 初めは1分間の質問、2セット目は2分間の質問、とステップアップする組み立てになっている。

4.2.3 教材評価の観点及び基準

4.2.1及び4.2.2の分析を踏まえ、採択数の多い光村図書・東京書籍の小中学校国語教科書に掲載されている「話すこと・聞くこと」の全教材を分析した。(図4参照)

現在小中学校の国語教科書全国占有率第一位の光村図書と第二位の東京書籍に掲載されている「話すこと・聞くこと」の教材を分析した。^{(注8)(注9)}

分析の観点は、現場で実践するにあたって特に重要だと判断した次の①～⑤の5つとした。

① 取扱時数が適切か

- ◎…4時間以内
- …6時間以内
- △…7時間以上

② 指導事項の数が適切か

- ◎…話す・聞く1, 全体3以内
- …話す・聞く2以内, 全体4以内
- △…話す・聞く3以上, 全体5以上

2015年度小学校教科書採択状況一文科省まとめ

時事通信社『内外教育』2015・1・16号より

順位	発行者	冊数	占有率
1	光村	6,876,540	60.9
2	東書	2,461,630	21.8
3	教出	1,966,796	14.5
4	学図	260,178	1.9
5	三省堂	114,366	0.8
計		11,679,510	100.0

2016年度中学校教科書採択状況一文科省まとめ

時事通信社『内外教育』2015・12・8号より

順位	発行者	冊数	占有率
1	光村	2,099,133	59.5
2	東書	545,082	15.5
3	三省堂	419,820	11.9
4	教出	353,730	10.0
5	学図	107,608	3.1
計		3,525,371	100.0

図4 小中学校教科書採択状況

③形式が明確に示されているか

(発表時間、発表原稿の字数、構成、話し合いのマニュアル、聞き取りメモの形式等)

◎…明確に示されている

○…示されているが明確ではない

△…示されていない

④学習の手順が明確に示されているか

◎…明確に示されている

○…示されているが明確ではない

△…示されていない

⑤手本が示されているか

◎…全部示されている

○…一部示されている

△…示されていない

前述の5つの観点をもとに、次の基準で総合評価を行った。

〈総合評価〉

◎…◎が4つ以上

○…◎が3つ、または△がない

△…◎が2つ以下

4.2.2 教科書教材の分析

(1) 光村図書 (注10・11)

【小学校】(光村 平成27年度版)

教材名	取扱 時数	指導 事項	形式	手順	手本	総合 評価
1年 35時間	*学習指導要領では35時間					
あさ	2◎	◎	△	△	△	△
なんていおうかな	2◎	○	△	△	△	△
どうぞよろしく	3◎	△	○	△	△	△
こえのおおきさ、どうするの	1◎	◎	△	△	△	△
えをみてはなそう	2◎	◎	△	△	◎	○
わけをはなそう	2◎	○	△	△	○	△
おもいだしてはなそう	3◎	△	△	△	○	△
あいうえおであそぼう	3◎	○	△	△	◎	△
たからものをえよう	4◎	△	△	△	◎	△
なつやすみのことをはなそう	4◎	△	△	△	◎	△
ともだちに きてみよう	4◎	△	△	○	◎	△
これはなんでしょう	4◎	○	△	◎	○	△
2年 35時間	*学習指導要領では35時間					
じゅんばんにならぼう	1◎	◎	△	◎	◎	◎
ともこさんはどこかな	4◎	○	△	○	◎	△
大きなもの、教えたい	5○	△	△	○	◎	△
あったらいいな、こんなもの	14△	△	△	○	○	△
みんなでできよう	8△	◎	△	○	○	△
3年 30時間	*学習指導要領では30時間					
よく聞いて、じこしようかい	1◎	○	○	◎	◎	○
よい聞き手になろう	5○	△	△	○	◎	△
(きちんとつたえるために)						
つたえよう、楽しい学校生活	15△	△	△	△	△	△
しりょうから分かる、小 学生のこと	7△	△	△	○	◎	△
4年 30時間	*学習指導要領では30時間					
ばらばら言葉を聞き取ろう	1◎	◎	○	◎	◎	◎
よりよい話し合いをしよう	4◎	◎	△	△	△	△
だれもが関わり合えるように	15△	△	△	△	○	△
聞き取りメモの工夫	6○	○	△	○	◎	△
5年 25時間	*学習指導要領では25時間					
おしえてあなたのこと	1◎	◎	◎	◎	◎	◎
きて、きてきてみよう	6○	△	○	○	◎	△
明日をつくるわたしたち	14△	△	△	△	○	△
すいせんします	6○	○	△	○	○	△
6年 25時間	*学習指導要領では25時間					
ついで ついで 一つのお話	1◎	◎	○	◎	○	○
学級討論会をしよう	8△	○	△	○	◎	△
未来がよりよくあるために	11△	△	△	○	◎	△
今、私はよくは	6○	△	△	○	○	△

【中学校】(光村 平成28年度版)

教材名	取扱 時数	指導 事項	形式	手順	手本	総合 評価
1年 17時間	*学習指導要領では15～25時間					
声を届ける	1◎	◎	△	○	○	△
情報を的確に聞き取る	1◎	◎	△	△	◎	○
「好きなもの」を紹介しよう	4◎	△	◎	○	◎	○
(スピーチをする)						
流れを踏まえて話し合おう	1◎	◎	△	△	△	△
話題や方向を捉えて話し合おう	5○	△	△	△	○	△
グループディスカッションをする						
一年間の学びを振り返ろう	6○	△	○	△	○	△
(ポスターセッションをする)						
2年 15時間	*学習指導要領では15～25時間					
要点を整理して聞き取る	1◎	◎	△	△	△	△
魅力的な提案をしよう	5○	△	◎	△	○	△
(プレゼンテーションをする)						
相手の考えを踏まえて発言する	1◎	○	△	△	○	△
話し合って考えを深めよう	5○	△	△	△	○	△
(グループディスカッションをする)						
一年間の学びを振り返ろう	6○	△	○	△	△	△
(国語学習の報告書をまとめる)						
3年 13時間	*学習指導要領では10～20時間					
評価しながら聞く	1◎	◎	△	△	○	△
社会との関わりを伝えよう	5○	△	◎	△	◎	△
(相手や目的に応じたスピーチをする)						
話し合いを効果的に進める	1◎	◎	△	△	△	△
話し合って提案をまとめよう	5○	△	△	△	○	△
(課題解決に向けて 会議を開く)						
三年間の歩みを振り返ろう	6○	△	○	△	○	△
(学びについて語り合う)						

〈考察〉

- ①学習の手順が具体的に示されていない教材が多く、教員の負担が大きい。
- ②学習者の発達段階を考慮していない難しい課題が多い。
- ③1つの単元に複数の指導事項が組み込まれており、学習目標が不明確な教材が多い。
- ④繰り返し学習させる発想がなく、次々と新しい内容が課されるので、技術が身に付かない。
- ⑤取扱時数が多い教材ほど、指導事項も多い。10時間を越える単元は、学習目標が分からない。

図5 「話すこと・聞くこと」教科書教材分析(光村図書)

(2) 東京書籍 (注12・13)

【小学校】(東京書籍 平成27年度版)

教材名	取扱 時数	指導 事項	形式	手順	手本	総合 評価
1年 35時間	*学習指導要領では35時間					
はきはきあいさつ	2◎	○	△	△	◎	△
よろしくね	2◎	◎	△	△	◎	△
ともだちにはなそう	4◎	△	△	△	◎	△
きいてつたえよう	2◎	◎	△	△	○	△
はなしたいなききたいな	5○	△	△	△	◎	△
「ききなもクイズ」をしよう	8△	○	◎	○	◎	△
「じゃんけんさん」をひらこう	10△	△	○	○	◎	△
2年 35時間	*学習指導要領では35時間					
ことばで絵をつたえよう	5○	◎	○	○	◎	○
まよい犬をさがそう	4◎	◎	○	○	◎	○
たからものをしょうかいしよう	7△	△	○	○	◎	△
あそびのやくそくを話し合おう	7△	◎	△	△	◎	△
「おもちゃ教室」をひらこう	11△	△	○	△	◎	△
3年 30時間	*学習指導要領では30時間					
話したいな うれしかったこと	6○	△	○	○	◎	△
インタビューをしてメモを取ろう	4○	◎	○	△	◎	△
グループで話し合おう	7△	◎	○	△	○	△
町について調べてみよう	10△	△	△	○	◎	△
4年 30時間	*学習指導要領では30時間					
案内係になろう	4◎	○	△	△	◎	△
メモの取り方をくふうして聞こう	4◎	◎	△	△	◎	△
クラスで話し合おう	7△	◎	○	△	◎	△
報告します、みんなの生活	8△	△	○	○	◎	△
5年 25時間	*学習指導要領では25時間					
意見と理由を聞き取ろう	3◎	◎	◎	○	◎	◎
立場を決めて討論をしよう	9△	△	◎	○	◎	△
和の文化について調べよう	13△	△	○	△	◎	△
六年生はよくぞがんばった	5○	△	○	△	◎	△
6年 25時間	*学習指導要領では25時間					
意見と理由とのつながりを聞き取ろう	4△	◎	○	△	◎	△
問題解決のために話し合おう	6○	◎	△	△	◎	△
町の未来をえがこう	13△	△	△	△	◎	△
出会いにありがとう	5○	△	△	△	◎	△

【中学校】(東京書籍 平成28年度版)

教材名	取扱 時数	指導 事項	形式	手順	手本	総合 評価
1年 15時間	*学習指導要領では15～25時間					
質問する	1◎	◎	△	△	△	△
会話が弾む質問をしよう	2◎	◎	○	◎	◎	◎
順序立てて説明する	1◎	◎	◎	△	△	△
具体例を挙げて伝えよう (「ことわざ」スピーチ)	5○	○	○	○	◎	○
話し合いで問題を解こう (グループディスカッション)	6○	○	○	○	◎	○
2年 15時間	*学習指導要領では15～25時間					
問題意識を持って聞こう	3◎	◎	○	○	△	△
説得力のある提案をしよう (プレゼンテーション)	5○	○	◎	◎	◎	○
反論する	1◎	◎	△	○	△	△
話し合いで問題を解こう (リンクマップによる話し合い)	6○	○	○	◎	○	○
3年 11時間	*学習指導要領では10～20時間					
評価しながら聞こう	2◎	◎	△	△	△	△
目的や相手に応じて説明する	1◎	◎	△	△	△	△
場面に応じて話そう (条件スピーチ)	3◎	○	○	○	○	○
合意を形成する	1◎	◎	△	○	△	△
話し合いで問題を解決しよう (チャート式討論)	4◎	○	○	◎	◎	○

〈考察〉

- ①学習の手順が示されている教材が多い。
- ②繰り返し学習させる意図が見られる。
- ③全員が平等に練習できるように工夫された課題が見られる。
- ④ほとんどの教材で手本が示されているのはよいが、形式として明示されていない。
- ⑤技術の向上を図ろうという意図は見られるが、実用的な使いやすさにはもう少し工夫が必要である。

図6 「話すこと・聞くこと」教科書教材分析(東京書籍)

5. 今後へ向けての提案

5.1 指導内容を整理する

「話すこと・聞くこと」の指導内容の整理と小中高の指導の体系化の必要性について、文部科学省は次のように述べている。^(注14)(傍線は篠原による)

○指導内容については、言語を用いたテキスト(情報)の理解の過程や、文章や発話による表現の過程の中で、どのような資質・能力の要素が働いているかを整理し、それらの要素を踏まえて、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの領域における指導事項を再整理することが必要である。こうした見直しは、国語科の特性に応じた情報活用能力の育成という観点からも極めて重要である。

○また、言葉の働き、役割に関する理解や、言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、書写に関する知識・技能、伝統的な言語文化に関する理解、文章の種類に関する理解、情報活用に関する知識・技能についても、小・中・高等学校を見通して、指導内容を体系的に整理していくことが求められる。

5.2 国語科では言語技術の定着に専念する

指導内容の整理にあたっては、学習指導要領の国語科の目標に示されている「国語を適切に表現」「正確に理解」「伝え合う力を高める」「思考力や想像力及び言語感覚を養う」ために、国語科では言語能力を高めるための言語技術の向上に専念するべきであると考ええる。近年、文科省により「各教科における言語活動の充実」や「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)が推進され、どの教科でも発信的な言語活動が取り入れられている。現在の国語科教科書教材に見られるような学習活動は、他教科・他領域の中で多数実践されている。国語科で、目的意識、相手意識を作り上げて学習を設定する必要はない。

篠原は、音声言語技術の向上にむけて、次の二本立ての学習を提案する

①国語科では「話すこと・聞くこと」の言語技術を繰り返し練習し、その定着を図る。(基礎学習)

②他教科・他領域では、この音声言語技術を各教科・領域の学力の習得のために活用する。(発展学習)

②まで国語科で背負い込んでいる現状が、「話すこと・聞くこと」の学習を難しくしている。この考えに基づき、今後の国語科教育における「話すこと・聞くこと」の柱とすべき指導内容として、「口頭作文」「ひと言感想」「言語技術の練習」の3つを提案する。以下、それについて述べる。

5.2.1 口頭作文

「口頭作文」の目的と手順を次に示す。

①口頭作文の目的は、論理的思考力を育成するための練習である。

②論理的な構成で、スピーチをする。

論理的思考には、主に「演繹的思考」と「帰納的思考」がある。「演繹的思考」は古代ギリシャのアリストテレスによって体系化され、中世ヨーロッパでキリスト教のもと展開された推論の方法で、「言葉と言葉の関係をとらえる」思考といえる。1つの命題から新しい命題を導く推論の方法で、現在では、数学や記号論理学としてコンピュータに利用されている。「帰納的思考」は17世紀の前半、イギリスのフランシス=ベーコンが発見した推論の方法で、観察や実験から事物と言葉の関係をとらえる思考といえる。複数の具体例から共通の性質を発見する推論の方法で、現在では、自然科学全般に利用されている。篠原は、論理的思考力・表現力の育成には、この二つの論理的思考を組み合わせた文章構成の活用が有効であると考えている。

帰納論理…複数の具体例→考察(共通性)

演繹論理…考察→結論(価値の一般化)

この2つの論理的思考を1つの文章構成として効果的に組み合わせて活用することによって、混沌とし

た現実を分かりやすく整理したり、未知の事象について推論したりして、論理的思考力・表現力を高めることができる考える。そこで、口頭作文の構成には、以下に示す「はじめ」「なか1」「なか2」「まとめ」「むすび」を活用することを提案する。

「はじめ」全体のあらまし

「なか1」具体的事例1

「なか2」具体的事例2

「まとめ」感想（2つの事例の共通性を述べる…帰納論理）

「むすび」主張（まとめを一般化する…演繹論理 *中学校以上）

③事前準備として発表原稿を書く。（小学3年生以上）

④主な題材

i 自己紹介

ii 行事や学習内容の報告

iii 係活動や委員会の紹介、感想

iv 地域の紹介 等

⑤発表原稿の長さは、200字程度、最大でも400字とする。全員が発表すること、繰り返し何度も実践することが前提だからである。

⑥この学習により、具体的事例を根拠に物事を考える習慣がつく。

5.2.2 ひと言感想

「ひと言感想」の目的と手順を次に示す。

①「ひと言感想」の目的は、自分の観点を決めて考察し、その場で言語化する練習である。

②次のような機会に、「ひと言感想」を発表させる。

i 行事後

ii 一単元の学習後

iii 友達の発表を聞いた後

iv 朝会で校長先生の話聞いた後 等

③発表原稿は作らない。

④順番に全員に発表させることを原則とするが、言えないときには無理せず最後にもう一度発言の機会を与える。

⑤初めは「いいと思います」「楽しかったです」程度でよい。繰り返しお互いの感想を聞き合うことで、質の高い考察に進歩していく。

この繰り返しで、次第に自分のものの見方や考え方が明確になる。また、会議などの流れの中での的確なタイミングで自分の意見を述べる力も身に付く。

5.2.3 言語技術の練習

「音声言語技術の練習」の目的と方法を示す。

①「音声言語技術の練習」の目的は、文字通り音声言語技術の練習である。

②実生活に影響のない題材を用いて言語技術の練習だけを目的とした教材を開発する。現行教材のように現実的なテーマ（レク決め、係分担等）だと、結果による利害関係が生じるため、上手な子にしか司会等の活躍の場が与えられないからである。

③例えば次のような例が考えられる。

i 言葉遊びで基礎を学ぶ

言葉遊びを通して、発音、発声、声の大きさ、姿勢等の基礎的な音声言語技術を学ぶと共に、言葉で

伝え合う楽しさを味わえる教材を開発する。(なぞなぞ, 伝言ゲーム, 早口言葉, しゃれ等)

ii 仮想のテーマで練習する

練習するための仮想の状況を設定し, 全員が失敗を繰り返しながら楽しく上達できる教材を開発する。
(電話のかけ方, 嫌な誘いの断り方, 司会の進め方, 提案の仕方, 理由の述べ方, 聞き取りメモの書き方等)

6. 実践例

6.1 「あったらいいな こんな給食」(小学校中学年)

筆者がこれまでに実践した中で最も効果的だった, 深谷幸恵(2000)作成の教材「あったらいいな こんな給食」の実践例(小学4年)を以下に示す。^(注15)

6.1.1 教材について

(1) 単元・教材名 話し合いの練習をしよう「あったらいいな こんな給食」

(2) 目標 聞こえる声で, はっきりと, 聞き手の方を見て話す。

(3) 指導計画(1時間扱い)

- ①司会の進め方の学習をすることを。 (3分)
- ②教材文を一斉音読する。 (5分)
- ③5人グループで, 司会の練習をする。 (7分)
- ④各グループが順番で司会の練習をする。 (25分)
- ⑤学習の感想を発表し, 話し合う。 (5分)

(4) 教材文

1 司会のシナリオ		氏名
司会 1 (1)	これから, お楽しみ給食のメニューを決めます。今日決めるのは () の給食です。 () と牛乳は決まっています。みんなで決めるのは, おかずを二つとデザート一つです。	
司会 2 (2)	はじめに, おかず1を決めます。 () 自分がいいと思う方に手をあげてください。 () がいい人…… (人数を数える) …… () みんなの意見を聞くと () という人が多かったので, おかず1は () に決まりました。	
司会 3 (3)	次に, おかず2を決めます。 () 自分がいいと思う方に手をあげてください。 () がいい人…… (人数を数える) …… () みんなの意見を聞くと () という人が多かったので, おかず2は () に決まりました。	
司会 4 (4)	最後に, デザートを決めます。 () 自分がいいと思う方に手をあげてください。 () がいい人…… (人数を数える) …… () みんなの意見を聞くと () という人が多かったので, デザートは () に決まりました。	
司会 5 (5)	これまでの話し合いで, () 日の給食は, () () というメニューに決まりました。	
(9)	これで, お楽しみ給食のメニューを決める話し合いを終わりにします。	
【自こひょうか】◎○△で記入しよう。		
①みんなに聞こえる声で話すことができたか。	() ()	
②最後の言葉まではっきりと言うことができたか。	() ()	
③顔を上げて, みんなの方を見ながら話すことができたか。	() ()	
【感想】今日の話し合いの学習の感想を書こう。		

図7 「あったらいいな こんな給食」 教材1 (司会のシナリオ)

デザート	おかず2	おかず1	決まっている メニュー	日 に ち
			牛乳	日

司会 1	日	14 日（4 班用）	15 日（5 班用）	16 日（6 班用）
主 食	ごはん・牛乳	ごはん・牛乳	ごはん・牛乳	パン・牛乳
司会 2	おかず 1	鳥のからあげ・やきざかな	おでん・ぎょうざ	さけのムニエル・ハンバーグ
司会 3	おかず 2	けんちんじる・トマトスープ	とんじる・ワンドンスープ	コンンスープ・シチュー
司会 4	デザート	シュークリーム・エクレア	チョコケーキ・パニライス	パイナップル・いちご
司会 5		決まったことをメモする。		

司会 1	日にち	11日（1 班用）	12日（2 班用）	13日（3 班用）
	主食	パン・牛乳	ごはん・牛乳	パン・牛乳
司会 2	おかず 1	鳥のからあげ・ハンバーグ	おでん・やさじかな	ぎょうざ・さけのムニエル
司会 3	おかず 2	シチュー・ワンドラスープ	とんじる・けんちんじる	コーンスープ・トマトスープ
司会 4	デザート	もものゼリー・ぶどうのゼリー	プリン・ヨーグルト	りんご・みかん
司会 5		決まったことをメモする。		

メニュー表（教師用・児童には配らない）

図8 「あったらいいな こんな給食」 教材2 (メニュー表)・教材3 (司会のメモ)

(5) 指導案〈付録1〉(本稿 pp20-21) に掲載

6.1.2 実践報告

- (1) 日時 平成 23 年 11 月 17 日
- (2) 場所 茨城県ひたちなか市立長堀小学校 4 年 4 組
- (3) 授業者 学級担任 篠原京子
- (4) 児童の感想
- ①緊張して声がなかなか出なかったけど、みんな聞いてくれてうれしかった。
- ②たくさん人がいたので緊張したけど、シナリオを見ないでできてよかった。
- ③みんな声の大きさもよく、聞く人の方を見てはっきり話せていた。
- ④司会の進め方を練習して、声の大きさと声の速さが分かった。
- ⑤これからはシナリオを見ないでみんなの方を見て大きい声で発表したい。
- ⑥シナリオがないと内容を忘れてしまうのでシナリオは大切だった。短い文でも覚えるのは大変だった。

(5) 参観者の感想

〈小学校教員〉

- ①マニュアルがあると自信をもって発表できる。
- ②各自の上達の度合いに応じて司会をすることで（時々見る・メモだけ・見ない）安心感がある。
- ③友達のよいところを積極的に見つけようとしていた。
- ④声が小さい子の時もみな一所懸命聞こうとする姿勢がよかった。

⑤ 4年生の話し合いとしては、技術的なものばかりではなくさらに理由などを自分なりに考えて発表できる場があるとよい。

⑥ 聞いている子は挙手だけでなくそう考えた理由を発表してもよかったのではないか。

〈中学校教員〉

⑦ シナリオがあれば4年生でもここまで話せるのだということが分かった。声のボリュームを子ども達が意識している。前に出ても恥ずかしがらずに大きな声で発表していた。聞く態度がいいからこそ安心して発表できるのだと感じた。本当にどの子どももよく聞いていた。(おしゃべりの声がしないのに感動)

⑧ 一人一人の子ども達の話し方が自然に向上していくような授業だった。クラス全員に同じ体験をさせるというのがポイントだったと思う。学年が上がると司会などやりたがらない子どもが増えてきてしまう。それが経験不足につながり、さらにやりたがらなくなってくる。話すこと・聞くことの基本があった授業で勉強になった。

(6) 講師指導(茨城県ひたちなか市教育委員会 飯村裕一指導主事)

① まず音読のスピードに驚いた。学習のしつけができており鍛えられているクラスであることがすぐ分かった。先日明大の斎藤孝先生の講義を聞いたが、そのときの大人の音読のスピードと同じにできている。また、普段から「考えさせる」「気づかせる」などの学習の訓練がなされていると感じた。

② 指導案では指導事項を押さえ、教師・児童の目標が明確であった。また、話し合いの学習がステップアップできるよくできた指導計画であった。

③ 「学習の進め方」を示し、児童に見通しをもって学習させていたことがよい。どの子にも力が付く「ユニバーサルデザイン」された授業であった。

④ スキル学習として「型」を示したことがすばらしい。目標が明確な授業になった。

6.1.3 考察

「架空の給食献立を決める話し合い」という設定のこの教材は、次の点で優れている。

① 目標が明確である。

② 司会の練習を、全員が繰り返し実践できる。

③ 話し合いの結果が現実の生活に影響しないので、安心して全員が練習できる。

6.2 「自己紹介リレー」(小学校低学年～中学3年) ^(注16)

6.2.1 教材について

(1) 単元・教材名 「自己紹介リレー」

(2) 目標 ① キーワードを明確にして自己紹介する。【話すこと】

② 友達の自己紹介のキーワードを正しく聞き取り、記憶する。【聞くこと】

(3) 指導計画(1時間扱い)

① 自己紹介リレーをする。

① 5人ずつ前に出て横1列に並ぶ。

② 1人目が自己紹介をする。(名前プラス1事項)

例「山田太郎です。サッカーが得意です。よろしくお願いします。」

③ 2人目が自己紹介をする。

例「サッカーが得意な山田太郎さんの次の鈴木花子です。好きな教科は理科です。よろしくお願いします。」

④ 3人目が自己紹介をする。

例「理科が好きな鈴木花子さんの次の佐藤大介です。趣味はつりです。よろしくお願いします。」…(同様に5人目まで続ける。)

- ⑤ 5 人の自己紹介が終わったら一緒に礼をして席に戻る。
- ⑥ 次の 5 人が自己紹介をする。(前の 5 人と同様にして学級全員が自己紹介をする。)
- ② 聞き取りメモを書く。
- ① 全員のスピーチ終了後、学級全員の名前の入ったワークシートを配布する。
- ② ワークシートに聞き取ったキーワードを記入する。(他人と相談せず、自分の記憶を頼りに記入させる。)

ワークシート	氏名	山田太郎	鈴木花子	佐藤大介	田中陽子
	キーワード	サッカー	理科	つり	

図9 「自己紹介リレー」ワークシート

- ③ 聞き取りメモの答え合わせをする。
- ① 学級全員が自分のスピーチのキーワードを発表する。(「サッカーです。」「理科です。」「つりです。」「……」)
- ④ キーワードの発表を聞き、各自自分のワークシートの丸付けをする。
- ⑤ 何人のキーワードを聞き取れたか記入して提出する。(30 名中 13 名なら「13 | 30」と記入させる。)

6. 2. 2 考察

これまで数回の実践の結果、この「自己紹介リレー」では次のような成果があった。

- ① 児童全員について各 3 回(①自分の自己紹介 ②次の児童による復唱 ③聞き取りメモのキーワード発表) “出番” があり、児童の意欲が持続する。
- ② キーワードを中心に分かりやすく話す練習や、他人の話を短いキーワードで覚える練習ができる。
- ③ 他の友達の名前や特徴について何度も聞いたり聞き取りメモに書いたりすることでお互いの理解が深まる。
- ④ 自分のスピーチの内容を覚えてくれた人の数で自分の話し方の成果が確認できるため、次からの「話すこと・聞くこと」の活動に取り組む態度に真剣さが増す。

7. 成果と課題

7. 1 成果

- (1) 現行教科書の問題点が明らかになった。
- (2) 指導事項の整理案と効果的な教材案を示したことにより、今後の研究の糸口ができた。

7. 2 課題

- (1) 「日常生活・社会生活に役立つ言語技術の定着」という国語科の役割を自覚して、楽しく学べ、指導しやすい「話すこと・聞くこと」の教材を開発する必要がある。

(2) 小中高における「話すこと・聞くこと」の指導の体系化を図る必要がある。

8. まとめ

今後、価値観の異なる人々との交流が増え、互いを理解して円滑な人間関係を築くためには「話す・聞く」力がますます重要になる。「日常生活・社会生活に役立つ言語技術の定着」という国語科の役割を自覚して、楽しく学べ、指導しやすい「話すこと・聞くこと」の教材を開発する必要がある。また、小中高における「話すこと・聞くこと」の指導の体系化を図ることで、指導効果はよりいっそう高まる。

注

- 1 文部科学省教育課程部会国語ワーキンググループ「資料10」平成27年11月19日, p11
- 2 文部科学省教育課程部会小学校部会(第4回)配付資料2-1「小学校部会におけるこれまでの議論のとりまとめ(案)」平成28年3月14日
- 3 「教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」補足資料p 88「国語に関する現状について①」平成27年8月26日
- 4 『文部科学省検定済教科書 38 光村 国語 小学校国語科用 3年上 わかば』光村図書, 2014年3月5日検定済, pp108-115
- 5 『小学校国語科用 文部科学省検定済教科書 2 東書 国語 3年下 あたらしい国語』東京書籍, 2014年3月5日検定済, pp110-117
- 6 『文部科学省検定済教科書 38 光村 国語 小学校国語科用 5年 銀河』光村図書, 2014年3月5日検定済, p10-11
- 7 『中学校国語科用 文部科学省検定済教科書 2 東書 国語 1年 新しい国語』東京書籍, 2015年3月6日検定済, pp55-57
- 8 『内外教育』時事通信社, 2015年1月16日, p7
- 9 『内外教育』時事通信社, 2015年12月8日, p6
- 10 『文部科学省検定済教科書 38 光村 国語 小学校国語科用(1年～6年)』光村図書, 2014年3月5日検定済
- 11 『文部科学省検定済教科書 38 光村 国語 中学校国語科用(1年～3年)』光村図書, 2015年3月6日検定済
- 12 『小学校国語科用 文部科学省検定済教科書 2 東書 国語(1～6年)』東京書籍, 2014年3月5日検定済
- 13 『中学校国語科用 文部科学省検定済教科書 2 東書 国語(1～3年)』東京書籍, 2015年3月6日検定済
- 14 文部科学省教育課程部会小学校部会(第4回)の配付資料2-1「小学校部会におけるこれまでの議論のとりまとめ(案)」, 2016年3月14日
- 15 市毛勝雄編『「話し方・聞き方」新教材と授業開発 上巻』明治図書, 2000年, pp37-43
- 16 篠原京子, “何度も活躍! 自己紹介リレー”, 『教育科学 国語教育』, 749号, 2012年6月号, pp18-19

〈付録1〉「あったらいいな こんな給食」指導案

あったらいいなこんな給食
第3学年 国語科学習指導案

〇〇県〇〇立〇〇小学校
平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇)
授業者 〇〇〇〇

1. 単元名 話し合いの練習をしよう
2. 教材名 あったらいいなこんな給食
3. 指導目標
(1) 聞こえる声で、はっきりと、聞き手の方を見て話す。
4. 指導計画(全1時間)

時	指導内容	評価
第1時(本時)	お楽しみ給食の献立を決めるという架空の設定で話し合いの練習をする。シナリオにそって全員が司会を練習する。	はっきりと聞き手の方を見て話すことができたか。

5. 第1時の指導事項
(1) 聞こえる声で、はっきりと、聞き手の方を見て話す。
6. 第1時の授業展開 (▽印は音読指導を示す)

分	学習内容	指導と学習活動	評価・留意点
0	1 学習内容を知る	<p>あったらいいな こんな給食 司会の進め方 (板書)</p> <p>1 今日は司会の進め方の学習をします。 1-2 「あったらいいなこんな給食」というテーマで、給食のメニューを決める司会をします。 1-3 本当に出るわけではありません。</p>	1 礼をした後すぐ板書する。筆順を正確に書く。
	2 司会のシナリオを音読する 一斉音読	<p>2 司会は大勢に向かって話すので言い方が大切です。ここに司会のセリフを書いたシナリオがあります。初めはこれを見ながら話します。 2-2▽シナリオをみんなで読みましょう。「これから、お楽しみ給食の…」ハイ。(1分32秒)よく読めました。 2-3 このように、1人の司会が話す言葉を5人で分担して話します。</p>	2-2 1分間に350字程度の速さで読む。空欄の()のところは「何々」と読むことにする。
5	3 司会の練習をする グループ編成 気をつけること グループで練習	<p>3 5人でグループを作りましょう。 3-2 司会をする時に気を付けることを言います。(板書して読み上げる)</p> <p>①みんなに聞こえる声で話す。 ②最後の言葉まではっきりと言う。 ③顔を上げて、みんなの方を見ながら話す。(板書)</p> <p>3-3▽気をつけることをみんなで読みましょう。「みんなに…」ハイ。(11秒) 3-4 各グループで役を決めて練習しましょう。時間は5分です。ハイ、始め。(5分過ぎたら)終わりです。</p>	3 座席の近い人同士でグループを構成させる。 3-3 声がそろわないときには叱らずに読み直させる。 3-4 机間指導で助言する。各班に担当する日にちを伝え、班に1枚「司会のメモ」を渡す。
15	4 グループ毎に司会をする シナリオを読む シナリオを時々見る	<p>4 最初の司会グループ、出てきましょう。第一ステップとして、シナリオを読みながら「11日のメニュー」の司会をしましょう。(第1班の5人がシナリオを読む) 4-2 よくできました。(拍手)第一グループの話し方についてよかったことを発表しましょう。 4-3 第二グループ、出てきましょう。第二ステップとして、シナリオを時々見ながら「12日のメニュー」の司会をしましょう。</p>	4 司会以外の児童はよく聞いて好きな方を選び、挙手させる。 4-2 数人に感想を言わせる。 4-3 課題を少しステップアップさせる。
20			

25	メモを見る	(第2班の5人が司会をする) 4-4 よくできました。(拍手) 第二グループの話し方についてよかったことを発表しましょう。 4-5 第三グループ、出てきましょう。同じく、シナリオを時々見ながら「13日のメニュー」の司会をしましょう。 (第3班の5人が司会をする) 4-6 よくできました。(拍手) 第三グループの話し方についてよかったことを発表しましょう。 4-7 第四グループ、出てきましょう。第三ステップとして、シナリオではなくメモを見ながら「14日のメニュー」の司会をしましょう。 (第4班の5人が司会をする) 4-8 よくできました。(拍手) 第四グループの話し方についてよかったことを発表しましょう。 4-9 第五グループ、出てきましょう。同じく、メモを見ながら「15日のメニュー」の司会をしましょう。 (第4班の5人が司会をする) 4-10 よくできました。(拍手) 第五グループの話し方についてよかったことを発表しましょう。	4-4 数人に感想を言わせる。(以下同様) 4-5 第三グループも、シナリオを時々見ながら、第二グループと同様に行う。 4-7 課題を少しステップアップさせる。 各自の改善や工夫は賞賛する。 4-9 最後のグループまで続ける。どこでステップアップさせるかは、グループ数に応じて決める。
30			
35	5 学習の感想を発表する。	5 今日の学習の感想を言いましょう。	5 時間があれば席順に全員に言わせる。
40	6 学習のまとめ	6 今日は司会の練習をしました。とても上手にできました。これからの話し合いに生かしましょう。	6 自信をもたせ、今後の話し合いへの意欲を高める。
45			

7. 授業評価

- (1) みんなに聞こえる声で話すことができたか。
A 全員によく聞こえた。
B ほぼ全員に聞こえた。
C 聞こえない部分が多かった。
- (2) 最後の言葉まではっきりと言うことができたか。
A 最後まではっきり言えた。
B 最後まで言えた。
C 最後まで言えなかった。
- (3) 顔を上げて、みんなの方を見ながら話すことができたか。
A ずっとできた。
B だいたいできた。
C できないことが多かった。

8. 板書計画

感想	あつたらしいな こんな給食
司会の進め方	
① みんなに聞こえる声で話す。	
② 最後の言葉まではっきりと言う。	
③ 顔を上げて、みんなの方を見ながら話す。	

〈付録2〉自己紹介リレー 実践報告論文

すべての子から出る。言葉活動。しゅん

何度も活躍！ 自己紹介リレー

茨城県ひたちなか市立長城小学校 ●篠原京子

1 はじめに

「自己紹介」は、学級経営に欠かせない言語活動である。仲良くなるためには、名前を覚え、お互いの特徴を知ることが必要だから。授業参観で行えば、その後子どもが家で話す友達との出来事が保護者にも目に見えるように伝わり、コミュニケーションの輪は家庭にも広がる。

しかし、一回だけのスピーチ発表では、顔や名前を覚える間もなく終わってしまい効果が薄い。そこで、一人一人の児童が繰り返し何度も登場し、み

んなの記憶に残る効果的な自己紹介の方法を提案する。

2 指導計画（1時間扱い）

- 1 単元名 自己紹介リレー
- 2 単元の目標
 - (1) 分かりやすく自己紹介をする。【話すこと】
 - (2) 友達の自己紹介の内容を正しく聞き取り、記憶する。【聞くこと】
- 3 指導の手順
 - (1) 自己紹介リレーをする。
 - (2) 聞き取りメモを書く。
 - (3) 聞き取りメモの答え合わせをする。

3 指導の実践

- 1 自己紹介リレーをする。
 - ①五人ずつ前に出て横一列に並ぶ。
 - ②一人目が自己紹介をする。（名前 プラス一事項）
例「山田太郎です。サッカーが得意です。よろしくお願いします。」
 - ③二人目が自己紹介をする。
例「サッカーが得意な山田太郎さんの次の鈴木花子です。好きな教科は理科です。よろしくお願いします。」

④三人目が自己紹介をする。

例「理科が好きな鈴木花子さんの次の佐藤大介です。趣味はつりです。よろしくお願いします。」…（同様に五人目まで続ける。）

⑤五人の自己紹介が終わったら一緒に礼をして席に戻る。

⑥次の五人が自己紹介をする。（前の五人と同様にして学級全員が自己紹介をする。）

2 聞き取りメモを書く。

①全員のスピーチ終了後、学級全員の名前の入ったワークシートを配布する。

②ワークシートに聞き取ったキーワードを記入する。（他人と相談せず、自分の記憶を頼りに記入させる。）

〈ワークシート〉

氏名	キーワード
山田太郎	サッカー
鈴木花子	理科
佐藤大介	つり
田中陽子	

3 聞き取りメモの答え合わせをする。

○学級全員が自分のスピーチのキーワードを発表する。（「サッカーです。」「理科です。」「つりです。」「……」）

4 キーワードの発表を聞き、各自自分のワークシートの丸付けをする。

5 何人のキーワードを聞き取れたか記入して提出する。（30名中13名なら「13/30」と記入させる。）

四 まとめ

これまで数回の実践の結果、この

『教育科学国語教育』749号 2012年6月号 明治図書より

「自己紹介リレー」では次のような成果があった。

- 1 児童全員について各3回 ①自分の自己紹介 ②次の児童による復唱 ③聞き取りメモのキーワード発表）「出番」があり、児童の意欲が持続する。さらに、保護者は活動する自分の子どもの姿を繰り返し見ることが出来る。
- 2 キーワードを中心に分かりやすく話す練習や、他人の話を短いキーワードで覚える練習ができる。
- 3 他の友達の名前や特徴について何度も聞いたり聞き取りメモに書いたりすることでお互いの理解が深まる。
- 4 自分のスピーチの内容を覚えてくれた人の数で自分の話し方の成果が確認できるため、次からの「話すこと・聞くこと」の活動に取り組む態度に真摯さが増す。

